

# 漁業情報システムについて

## 1 はじめに

みなさんご存知のとおり，当水産試験場は平成 16 年度から指宿市岩本に移転し，水産技術開発センター（仮称：以下水技センター）として開所する予定です。



近年の情報技術の発展はめざましく，社会の様々な分野において大きな変化をもたらしています。このような情報技術の進展に対応し，漁業においても十分な恩恵を受けられるよう，現在，16 年度からの稼働を目指して漁業情報システムを構築中です。



現在の当場の漁業情報の提供については，ご不満をお持ちの方もいらっしゃると思います。これまで漁業情報を収集することに力が注がれ，収集した情報を提供するシステムの整備が不十分でした。

このため，今回の漁業情報システムの構

築にあたっては，これまで収集した漁業情報を迅速に加工し提供するための仕組みづくりと機器整備に重点が置かれています。

## 2 漁業情報システムの目的

水技センターでは，近年の情報通信技術の進展に対応して，漁業生産活動に係わる漁海況・赤潮などのリアルタイムな情報や研究成果等の情報を，漁業者をはじめとし県民等に迅速かつ効率的に提供します。

また，研究者間での試験研究データの共有化等試験研究業務の効率化・迅速化を図るため，これらの情報の収集・蓄積・加工・提供等の総合的な情報管理を行う「漁業情報システム」を整備します。

## 3 漁業情報システムの構成

漁業情報システムの構築のために，作業部会を設け各サブシステムを担当する研究員が鋭意検討しています。ここでは，これまでの検討結果を踏まえて，漁業情報システムのサブシステムの概要について紹介したいと思います。

### (1) 情報提供システム

各サブシステムの情報や研究情報をインターネット，FAX，携帯電話等でリアルタイムに情報提供できるようにします。

### (2) 漁船通信システム

船上の漁業者が主にインターネットを通して，最新の漁業情報を入手できるようにします。利用者の登録を行い，できる限りの漁業情報システムのサーバー資源や漁業情報を利用者に公開する予定です。

また，システムが提供する漁業情報の他に操業データなど漁業者独自の情報を追加してシステムを活用できるようにします。

### (3) 漁海況情報システム

#### 漁海況情報作成システム

毎週作成している漁海況週報やモジャコ情報の内容の精度向上とビジュアル化を図

ります。

#### 水揚情報管理システム

水産資源管理のための資源情報を得るために県内主要 35 漁協の水揚量を引き続き収集・管理します。これまで、解析図表の作成が難しかった水揚情報を自動的に作成し利用者が資源動向を把握できるようにします。

#### 市況情報システム

対象となる市場の日々の市況をリアルタイムに情報提供します。

#### フェリー情報システム

現在、情報提供を行っている定期客船(なみのうえ、クインコーラル、こしき)で観測した海況情報をより迅速に最新の情報を毎日提供します。

#### ブイ情報システム

現在、情報提供を行っている下甕島沖浮魚礁の海況情報を音声だけでなく、インターネットからもリアルタイムに利用できるようにします。

#### 衛星情報システム

人工衛星からのリモートセンシングデータを受信・解析しインターネットや FAX によりこれまでより精度の高い情報をリアルタイムに提供していきます。

特に、14 年 11 月に種子島から打ち上げ予定の ADEOS の情報も提供していく予定です。

#### (4) 赤潮情報システム

県内の主要な養殖漁場(東町、牛根、垂水、鹿屋)と連携し、赤潮(赤潮生物の分布、海洋環境情報)や魚病の情報をこれまでより迅速に収集・解析し、精度の高い情報提供ができるようにします。

#### (5) 地理情報システム

各サブシステムの情報は位置情報により地図と関連させ、提供情報の作成や解析を行うこととしています。

その中でも特に、地理情報システム(GIS)上で管理すべき情報をこのシステムで管理

し、インターネットGISにより利用者が目的に応じて自由に情報の閲覧や分析ができるようにします。

#### 漁場情報管理システム

これまで収集・作成した海底地形図や航空写真、藻場分布図を管理し、情報提供します。

#### 魚礁データ管理システム

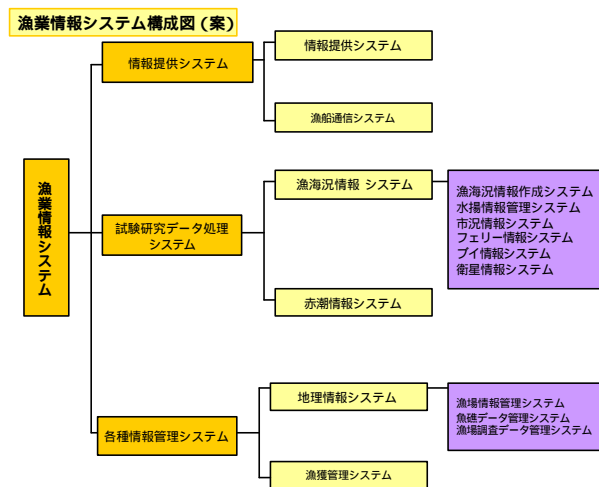
魚礁の配置図や魚の蝟集状況を撮影したビデオ等と水産振興課が作成した魚礁の設置計画の情報を管理し、情報提供します。

#### 漁場調査データ管理システム

これまで行った魚の分布調査情報や海洋観測の情報をデータベース化し、地図上に表示させ情報提供できるようにします。

#### (5) 漁獲管理システム

漁獲可能量(TAC)制度により、管理しなければならない魚種の漁獲量を把握し、引き続き国に報告します。



#### 4 おわりに

これまで、ホームページや漁海況情報提供の充実が求められながら、なかなかご期待に添えなかったことを反省しているところです。

まだ、詳細が決定していない部分もありますが、来年度からは試験運用が可能になったシステムを随時公開していく予定です。その際は、ご意見をいただきシステム構築に生かしていきたいと思ひます。

(漁業部 久田)